



くまに関するおすすめの本



かぼちゃひこうせんぷくらこ【アリス館】
(文)レンナート・ヘルシング(絵)スベン・オットー
(訳)奥田継夫・木村由利子

仲良しのおおくまんとこぐまくん。ある日、不思議な種を植えたら大きなかぼちゃができました。あまりにも大きいので家が押しつぶれそうになり、かぼちゃを家にします。そしてそれが嵐の日にそのまま舟になり、そして次は飛行船に！おおくまんとこぐまくんのおおらかなやり取りに、優しい気持ちになります。夢のような冒険話ですが何とも哲学的な終わり方もまた面白いところです。

くんちゃんのはじめてのがっこう【ペンギン社】
(作)ドロシー・マリノ (訳)まさきりこ

くまのくんちゃんは、はじめて学校へ行く日を心待ちにしていました。期待に胸をふくらませてやって来た学校では…。

一年生が学校にあがる期待と不安を、くんちゃんの体験を通し表されています。一年生や、これから入学する下のお子さまにおすすめです。

こぐまのくまくん【福音館書店】

(文)E・H・ミナリック
(絵)モーリス・センダック (訳)まつおかきょうこ

くまんとお母さんのやりとりがなんとも温かい気持ちにさせられるお話です。まだ甘えたいくまくんを大らかな優しさで包みこむお母さん。母の愛が子どもの安心感へとつながります。

4つのお話がありますので、その中から選んで読んであげてください。

きょうは みんなで クマがりだ【評論社】

(再話)マイケル・ローゼン (絵)ヘレン・オクセンバリー (訳)山口文生

「今日は皆でクマがりだ。捕まえるのは、でっかいやつ。空はすっかり晴れてるし、怖くなんかあるもんか。」と父と4人の子供と犬の、5人と1匹でクマがりに出掛ける話。途中、草原・川・ぬかるみ・森・大吹雪と色々なものが、立ちはだかる。5人と1匹は、それでも突き進んでゆく。読者は、多くのオノマトペにより臨場感を味わい、5人と1匹とクマがりを楽しめる事間違いなし。

くまのコールテンくん【偕成社】

(作)ドン・フリーマン

(訳)まつおかきょうこ

デパートのおもちゃ売り場に並んでいたコールテンくん。つりぼんのボタンのとれたコールテンくんを買ってくれる人はなかなかいません。ひとりの女の子が気に入りましたが、買ってもらえずに帰ります。コールテンくんはその晩暗いデパートをボタン探しにゆきます。ボタンは見つかるのでしょうか？そして…。

コールテンくんと女の子の心温まるお話です。

とびだせにひきのこぐま【絵本塾出版】

(作)手島圭三郎

版画で描かれたくまの親子の物語。冬ごもりの穴で生まれたこぐまが、広い世界にでて自由に動けるうれしさが伝わってくる絵本です。

